

## 平成 21 年度事後評価シート（平成 20 年度に実施した施策）

施策名		評価年月	平成	年	月
総括部局及び総括課長名					

環境省施策体系における施策番号及び施策名を記載。

当該施策の取りまとめ部局名及び課長名を記載。

### ① 施策の位置づけ

環境基本計画における位置づけ(第〇部)			平成 20 年度版環境・循環型社会白書における位置づけ (※・・・ページ以降)		
政策(章)	章		政策(章)	章	
施策(節)	節			章	
その他関連する個別計画					

※環境・循環型社会白書「平成 20 年度環境の保全に関する施策・平成 20 年度循環型社会の形成に関する施策」から該当箇所を記載

環境基本計画及び平成 20 年版環境・循環型社会白書における、当該施策に係る章・節を記載。また、京都議定書目標達成計画等これら以外の関連する個別計画等を記載。

### ② 施策について

施策の方針	<p>この施策が得ようとする成果等を記載。この施策がどのようなことを行い、どのような結果を得ようとしているのかを記載。</p>				
予算動向		H18 年度当初	H19 年度当初	H20 年度当初	<備考>
	金額(単位:千円)				
	一般会計				
	特別会計				
施策を構成する具体的手段	<p>【〇〇〇(目標の名称を記載)】</p> <p>当該施策の当初予算について、評価対象年度を含む 3 箇年分を記載。</p> <p>【〇〇〇(目標の名称を記載)】</p> <p>【〇〇〇(目標の名称を記載)】</p> <p>【記載に当たって特に留意する点】 『⑦予算事項(事務事業)について』で記載のある予算事項の中で、特に上位のものについては、【施策を構成する具体的手段】において、位置づけが分かるように毎年の評価シートを適宜、修正するものとする。</p>				

予算について、大きく変動した理由など特に説明すべき事項を記載。

### ③施策の方針に対する総合的な評価

#### 【記載に当たって特に留意する点】

- 施策の総合的な評価と目標毎の評価の整合性を図るため、評価書の各目標に【達成の状況】欄を新たに設け、目標毎の達成状況に対する評価を記載する。この内容を『③施策の方針に対する総合的な評価』欄にそのまま転記する。(注:『③施策の方針に対する総合的な評価』欄への転記は、下記(i)、(ii)のみとする)
- 上記【達成の状況】欄(新規項目)の記載に当たっては次の事項に留意する。
  - (i) 施策の実施により、目標に対しどのような進捗があったか(評価・分析の【有効性】に該当)を中心に、本目標に関する評価を簡潔に記述する。
  - (ii) 設定されている指標の進捗状況に言及しつつ、定量的に目標の達成状況について記述する。特に、直接指標を設定している目標については、指標の進捗状況を記述することにより定量的な表現が可能であるため、極力活用する。
  - (iii) 前年度の政策評価の実施以降、当該施策に関わる重要な動き(例えば、法案の提出・成立、指針・基準の策定、基礎的調査の実施等、環境省としてアピールすべき当該施策に関わる成果)があった場合には、本欄に記載する。
- 評価に当たっては、あらかじめ期待していた成果の得られた程度を示す、次の語尾例による記述に努める。
  - ・(施策の方針、目標に対して)期待以上の成果が得られた
  - ・(施策の方針、目標に対して)期待どおりの成果が得られた
  - ・(施策の方針、目標に対して)期待していた成果が十分に得られたとは言えない
  - ・(施策の方針、目標に対して)期待していた成果が得られなかった
- 期待していた成果が得られなかった場合には、「環境省の施策は予定どおり行われたか?」、「成果に対して影響を及ぼした外部要因(経済情勢等)はあったのか?」等その要因を明記するよう努める。

### ④今後の主な課題

③の総合的な評価において、依然として残っている課題や新たに生じた課題を記載。

### ⑤今後の主な取り組み

④の課題に対し、その課題解決や対策の推進に向け、今後どのように取り組んでいくかを記載。

- ⑤の取組を進めるに当たって、左表より該当する番号を記載。
- 「予算要求等への反映」欄は、①～③のうちから選択。
- 「機構・定員要求への反映」欄は、④又は⑤から選択。該当しない場合は、「—」を記入。

施策の方向性	①	施策の改善・見直し
	①-a	施策の重点化等
	①-b	施策の一部の廃止・完了・休止・中止
	②	取組を引き続き推進
	③	施策の廃止・完了・休止・中止
	⑤	定員要求を図る

今後の施策の方向性	予算要求等への反映	
	機構・定員要求への反映	

【区分の説明】  
政策評価実施細目3(5)⑤参照

⑥当該施策を構成する目標・指標及び評価

目標〇-〇	環境省施策体系における目標の番号及び名称を記載。		目標の具体的な内容を簡潔に記載。				
環境・循環型社会白書における位置づけ	〇章〇節 〇〇〇 〇章〇節 〇〇〇 〇章〇節 〇〇〇		平成 20 年度版環境・循環型社会白書の「環境の保全に関する施策・循環型社会の形成に関する施策」における、関連する章・節番号、項目名を記載。				
関係課・室	この目標の到達状況を明らかにするために可能な限り数値指標を設定。						
指標の名称及び単位	①〇〇〇〇[〇] ②(間接)〇〇〇〇[〇] ③(参考)〇〇〇〇[〇]		上段で記載した指標の番号毎に目標年及び目標値並びに過去5年度の数値を記載。				
指標年度等	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度	目標年	目標値
指標	①						
	②						
	③						
目標を設定した根拠等	基準年	基準年の値					
評価・分析	【達成の状況】		【記載に当たって特に留意する点】				
	【必要性】		【達成の状況】(新規項目) ○当該目標に対して、あらかじめ期待していた成果が得られたかどうかを明示する形で、達成の状況を記述する。原則として、この評価を『③施策の方針に対する総合的な評価』にそのまま転記する。 ○政策のマネジメント(PDCA)サイクルを明確化するためにも、『⑤今後の主な取組』において、当該施策の中で重点的に取り組むとした施策・事業については、次年度以降の政策評価書(⑥当該施策を構成する目標・指標及び評価の【達成の状況】欄)に、可能な限り施策・事業の進捗状況を明らかにするよう努める。				
	【有効性】		【記載に当たって特に留意する点】 ○有効性については、「何を指して(アウトカム)」、「何をして(インプット)」、「何が得られたか(アウトプット)」を明らかにした上で、期待される効果と、実際に得られた又は得られると見込まれる効果の関係を分析する。 ○目標に設定した直接指標の推移については、原則として記載する。間接指標又は参考指標のみが設定されている目標についても、これらの指標を活用し定量的な表現に努める。 ○アウトカム目標の達成状況を評価するに当たって、設定している直接指標が環境省の施策成果から遠い場合には、環境省の施策により近い指標(間接指標や参考指標を含む)の中から適切な指標を選定し、目標毎にアウトカムの中でロジックを立てる。その上で、環境省の施策のアウトプット(環境省の施策の実施により得られた効果)に着目して、環境省の施策を評価する手法も検討する。 ○指標のない目標の進捗状況は、定性的な評価にならざるを得ないが、その場合であっても、毎年同じように「～に向け進捗が見られた。」と記載するのではなく、前年度との比較を念頭に、前年度と当該年度の差分を明らかにして、その進捗を具体的に示すように努める。 ○指標として設定していない既存のデータ、客観的な情報・事実も活用して、より分かりやすい評価書の作成に努める。				

**【効率性】**

**【記載に当たって特に留意する点】**

- 効率性の評価として考えられる観点は、
  - ①「当該政策に基づく投入資源(インプット)とそれによって得られる政策効果(アウトカム、例えば、国民の満足度、国民生活に与える影響度等)との関係」に着目して評価。(本来求めている効率性)
  - ②「与えられたインプットのもとで、どのようにアウトプット(環境省の施策により、直接的に期待できる成果)を大きくするか」(生産性の向上)に着目して評価。
  - ③「同一のアウトプットに対して、どのようにインプットを抑えるか」(無駄の削減)に着目して評価。等がある。
- 効率性については、上記①～③のいずれかの観点から評価を行うこととし、これらの観点からの評価が困難な場合には、地方環境事務所の活用や地域に密着した組織との連携など、少なくとも当該施策をどのようにして効率的に実施したかについての評価・分析結果を記載する。
- 特に、施策の効率的な実施という観点からの評価については、地方環境事務所の存在意義を確かなものとするため、地方環境事務所の関与によって、どのように施策の効率的な実施が可能となったかの記述に努める。



**<今後の展開>**

上記の評価・分析の結果から、どのような課題が存在しているかを明らかにし、今後関連する事業をどのように実施していくかを記載。

**⑦予算事項(事務事業)について**

当該施策に関する主な法律・税制等				
この施策の実施に関連する法律や税制等の内容を記載。				
目標番号	関連する予算事項名及びその予算額(千円)			
		H20 当初	H21 当初	H22 反映
○	①			
-	②			
○	③			
	・			
	・			
○	①			
-	②			
○	③			
	..			

それぞれの目標の関係する予算事項を全て記載。なお、石油特会等再掲となる予算事項については、予算事項名の後にカッコ書きで「再掲:○-○」と該当する目標番号を記載し、予算額は記載せず「-」とし、二重計上にならないよう注意。

今回の評価結果を踏まえ、H22 年度事業への取組の考え方(↑:増額、→:継続、↓:減額、新:新規、×:廃止)を記載。

**⑧終期を迎えた予算事項についての検証**

予算事項番号	終期を迎えた理由	今後の対応策
○-○-①	⑦の「H22 反映」欄で×(廃止)としたもの(終期を迎えたもの)について、「支出の無駄を削減する観点からの廃止」等その理由を記載。終期となった結果、当該予算事項についての今後の取り組み(代替事業への移行、他の事業との統合による効率的運用等)の考え方を記載。	
○-○-③		
○-○-①		
○-○-⑥		
・		
・		

⑨特記事項

<p>&lt;政府重要政策としての該当&gt;</p>	<p>政府の重要政策として位置付けられているかどうかを記載。施政方針演説や重要閣議決定等において、当該施策に関連する発言等がある場合には、年月日、発言等関係部分の抜粋を記載。</p>
<p>&lt;当該施策に関する府省庁&gt;</p>	<p>当該施策に関係している府省庁名を全て記載。</p>
<p>&lt;昨年度評価書からの変更点&gt;</p>	<p>昨年度の評価書から目標、指標、目標値等を変更した場合には、該当箇所及びその理由を記載。</p>

⑩各目標に設定された指標について

<p>目標番号 及び指標名</p>	<p>○-○-① ○-○-②</p>	
<p>指標の解説</p>	<p>○-○-① ○-○-② ○-○-①</p>	<p>上段で記載した指標について説明。</p>
<p>評価に用いた資料等</p>		<p>評価を行う際に用いた資料等がある場合に記載。</p>



<p>指標に影響を 及ぼす外部要因</p>	<p>○-○-① ○-○-②</p>	<p>設定した指標に影響を及ぼすと考えられる外部要因がある場合には、指標の番号毎にその内容を記載。</p>
---------------------------	------------------------	---